

平成二十九年 新年のごあいさつ

初夢の送り先

上島町戸削総合支所企画政策課 MAIL kakaku@town.kamijima.ehime.jp

みなさん、あけましておめでとうございます。

2017年という新しい年を迎えるにあたって、みなさんに、ご挨拶とお願いを申し上げます。

新年とは言え、この国も世界の情勢も、ますます混沌とした様相を深めています。私たちの島が今すぐに沈んでしまうわけではありません。ここはしっかりと足元を見つめ直すべき時だと思えます。町民のみなさんがこの島で生きていくのに、なにか大切なのか、いま一度じっくりと考え直してください。確かに経済は大切な要素ではありませんが、全てではありません。島で生きていくために本当に必要なものはなにか、どうすればそれを保ち続けられるのか、みんな考えてみませんか。

上島町長

宮脇 馨



高齢化、少子化、働く場所、教育等々、問題は山ほどありますが、泣き言ばかり言ってもなにも解決しないのです。

私は逆にみなさんにお聞きします。みなさんはこの島でどんな生活がしたいのですか、明確なビジョンがありますか。これからのライフスタイルはどのように考えていますか。これは勿論、役場が決めることではありません。みなさんの考え方にかかっているのです。世代や性別、地域性などで異なっていることは、ある程度予想できますが、みなさんがここでこうして生きていきたいという、強い願望の方向性はまだまだ固まっていないのではないのでしょうか。

そこで一つだけ提案させていただきます。みなさんがこの島でどんな生き方をしたいか、それをどんな形式でもいいです。初夢として町長あてにお届けください。私はその夢を食う猫として、一番美味しい夢にささやかな記念品をお送りするとともに、その実現に向けて取り組みたいと思います。みなさんからどんな楽しい夢がでてくるのか、とても楽しみにしています。で、よろしくお願いたします。

酉年生まれにきく、平成二十九年の抱負

仕事も生活も楽しむ



平成二十九年は酉年。そこで、昨年12月、岩城地区にグループホーム「さくらや」をオープンしたばかりの、株式会社幸福丸代表、片平悦子さん（昭和32年酉年生まれ・弓削在住）にお話を伺いました。

上島町でグループホームをやりたいかった

岩城島出身の私は、弓削高等学校卒業後、短大で栄養学を学び、栄養士として働いてきました。平成13年、弓削町役場に管理栄養士として入庁、合併を機にケアマネージャーに転身しました。

ケアマネージャーとして働く中で、グループホームが必ずや必要になるように、いつのまにか、それが私の夢と

なりました。「夢は口にしなければ実現しない」ではないですけども、周りに話し続けていたら、自宅近くの空き家を紹介していただいて、一念発起し役場を退職。現在の会社を起ち上げ、「デイサービスはつびい横丁」を設立しました。本当はグループホームにしたかったのですが、建物が小さく、デイサービスからスタートとなりました。小さいからこそ、利用者もスタッフも楽しい、私の望んで



上島町議会議長

濱田 高嘉

新年明けましておめでとう
ございます。

平成二十九年の年頭に当たり、上島町議会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

上島町議会は、昨年の一般選挙によりまして新しい議会構成となり、議員一同、議会

基本条例の趣旨に基づいて、より身近な議会、開かれた議会の実現を目指し、町民の皆様の付託と信頼に応えられるよう日々精進してまいります。

地方創生への取り組みが推進されつつある現在、本町においては、交通網の再編をはじめ、少子高齢化への対応、地域の特性を活かした産業の振興など、課題が山積しておりますが、本年も町内各地区で地域住民との意見交換会を開催して、住民の皆様からのご意見等を議会活動や町づくりに反映させ、安全で安心な住みよい町づくりに、皆様と一緒に取り組んでまいりたいと決意を新たにしております。

終わりに、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

上島町議会

議長	濱田 高嘉
副議長	竹林 秀夫
議員	松原 彌一
	池本 興治
	土居 計彦
	前田 省二
	平山 昭成
	檜垣 一文
	亀井 満憲
	寺下 幸江
	大池 光章
	林 康彦
	村上 要二郎

いた場ができました。軌道に乗ってきた頃、「夜も預かる施設が必要だ」と思うようになり、自宅近くにいい場所があったことから、「次こそグループホームを！」と役場に補助金の申請に行きました。そこで、「望む声が多い岩城で先にやりませんか？」と言われ、岩城にグループホーム「さくらや」を設立しました。

さくらやのこだわり

「さくらや」は、元氣な認知症高齢者が共同で暮らすちよつと大きな「家」です。「家」のイメージを守りたくて玄関にわざと段差を残すなど、細部にこだわりました。

それから、何といつても食事ですね。お年寄りの楽しみは食べることです。ここに一番力を入れています。朝晩少なめ昼はたっぷり、10時と3時はティータイム。手作りおやつも登場します。私を含め2名の管理栄養士がいまから、栄養面もバッチリです。対面式のキッチンで調理している、料理好きな入居者が手伝ってくれるんですよ。

オープン前の内覧会では、約70名の方が見学にきてくだ

さいました。皆さんとっても気に入っていただいて、今から予約したいとの声も上がる程でした。

今、7名の方が入居しています（12月18日現在）。みんな、自室に閉じこもることもなく、起きたらリビングに来て、みんなでテレビを見たり遊んだり、お散歩したり。寝るまで部屋に帰らないんですよ。

隣のクロッケーター場を利用される方たちが、よくのぞいてくれるんです。お友達のお家を訪ねる感覚で、いろんな方に遊びに来てほしいですね。

入居者もスタッフも楽しい生活の場づくり

「はっぴい横丁」があつて、「さくらや」があつて。その真ん中でどちらにもいて楽しく暮らしたいというのが私の夢です。

「さくらや」が思っていたよりも大きくなってしまい、設立したばかりの今は両立していくのが精一杯で、不安で押しつぶされそうな毎日ですが、「はっぴい横丁」のように、みんなが楽しい生活の場をつくっていきたいと思います。

そして、私自身も楽しく暮らせるよう、日々頑張ります。